



Little Diamonds

全国Vへ最後のチャンス！ Jユースカップ予選リーグがスタート

連勝スタートはならず。 C大阪に追いつかれる

後半12分、萩尾勇真がFKを直接シュート。バーに当たってゴールインした
(10/24 / C大阪戦)

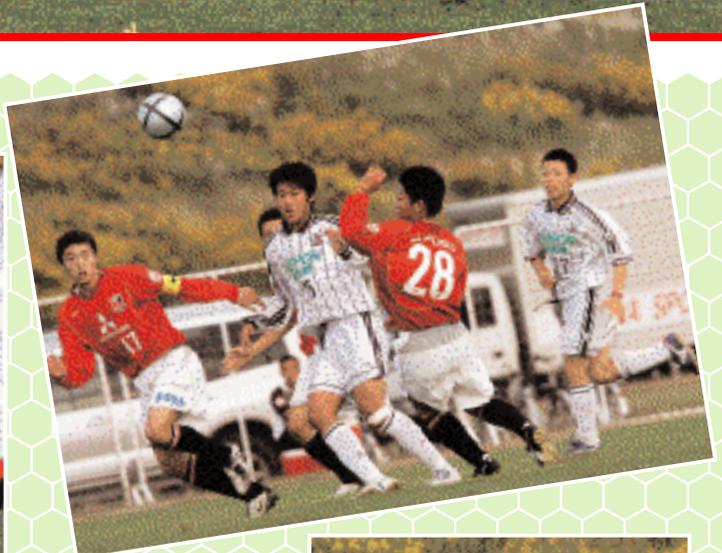
Jユースカップ第12回Jリーグユース選手権予選リーグが始まり、浦和レッズは10月24日、東京農大浦和総合運動場にセレッソ大阪を迎えて第2戦を行った。

レッズは、パワーに勝るC大阪に押され気味の前半をよくしのぎ、後半12分、市川雄太郎が倒されて得たFKを萩尾勇真が直接シュート。ボールはバーに当たってゴールインした。C大阪の反撃を最終ラインで防ぎ、この1点を守っていたレッズだったが、後半41分、クリアボールをフリーで撃たれ同点ゴールを許した。

レッズは第1戦をアウェーで横浜F・マリノスに勝っており、1勝1分け。連勝スタートは逃したがまずまずの出だしとなった。同じEグループではC大阪が3戦して2勝1分け、横浜Mが1勝1敗。甲府が3敗となっている。Eグループの予選リーグは11月21日まで行われ、全7グループの1位チーム、および各グループ2位チームのうち上位5チームが決勝トーナメントに進む(2~3面に関連記事)



粘り強い守備でパワーあるC大阪の攻撃を止めた渡辺竜二(10/24 / C大阪戦)



堤俊輔(左)と金生谷仁がC大阪のチャンスをつぶす(10/24 / C大阪戦)

右からチャンスを作った西澤代志也(10/24 / C大阪戦)



後半から出場した鈴木竜基がゴール前へ走る(10/24 / C大阪戦)



後半40分、C大阪のCKをクリアする大橋基史(10/24 / C大阪戦)

3年間の総決算、高円宮杯



ジュニアユース監督
名取 篤

ジュニアユースの監督を務めています、名取です。
今年のチームはずば抜けた中心選手はいませんが、一人一人のレベルや意識が高いので、それがかみ合えばチームとしては面白いと思います。自分たちの特長をお互い知って、それを生かしながらチームのためにやってみれば、いい結果が生まれるでしょう。初めは、もっとできるはずなのに、と思うところもあったのですが、今では試合はもちろん、練習の中でも全力を出して、間違いなく1人1人のレベルは上がっています。
高円宮杯は、3年生にとってはジュニアユースの総決算、最後の大会ですし、レッズのジュニアユースとしてこの全国大会に出たことがまだありません。10月30日から始まる関東大会では、大変厳しいグループに入りましたが、選手たちが意気消沈するのではなく、相手を聞いて「早く試合がしたい」と言ってくれたので、うれしく思いました。県予選を勝ち抜いて、多少自信もついたと思います。ここを踏ん張れば勝てる、とか自分たちで修整したり声を出したり、というところが出てきました。
三菱養和にも横浜M追浜にも今年一度負けていますから、今年の借りは今年のうちに返したいと思っています。

大会名はResult参照			B	B	B	B	C
試合日(結果)			10/2	10/11	10/16	10/17	10/17
選手名			9-0	3-1	3-0	2-2	11-1
飯塚 大地	MF						
岡田 将知	MF						
岡本 翔平	FW						
高垣 大樹	MF						
高橋 大輝	DF						
田中 貴大	DF						
富居 大樹	GK						
野口 修平	DF						
橋口 弘斗	MF						
早船康太郎	GK						
久岡 真生	GK						
平田祐次郎	DF						
廣瀬 和桂	MF						
福島 悠斗	FW						
松本 昂大	DF						
三森 翔	MF						
矢部 雅明	MF						
山崎 家光	MF						
陸川 哲晃	DF						
渡辺 登太	DF						
長岡 彬	FW						
池西 佑樹	MF					. 2	
池田 涼司	DF						
井田 龍広	DF						
岩井 貴裕	DF	. 1					
岩井 陸	DF					
岸 幸太郎	FW	. . 1 . 1 . . 1					
慶徳 優	GK					
田 大志	DF					
菅井 順平	DF					
高橋 峻希	MF	. 1 . 1 . . . 1					
高山 直人	GK					
武富 尚紀	FW 3					
田仲 智紀	MF	. 1 3					
永田 拓也	DF	. 2 . 1 . . .					
沼 大輔	MF					
平野 又三	MF					
山田 直輝	MF	. 1 . . 1 . . 1					
藤田 圭介	DF	. 2 . . 1 . . 1					
和田 祐樹	MF 1					
池西 希	MF					
石沢 哲也	MF	. 1					
大里 康朗	DF					
加瀬 光	DF					
加藤 貴幸	MF					
北見 亮太	DF					
後藤 良平	GK					
齋藤 博	MF					
1 渋谷 将太	MF					
高瀬 優孝	FW					
高橋 秀行	DF					
利根川良太	MF					
根本 和毅	MF					
長谷川 凌	DF					
原 豊寛	GK					
原口 元気	MF					
簗本 啓太	FW					
森田 健介	MF					
1 山崎 大成	FW					

Action Result

YOUTH

3年生にとっては最後の大会、Jユースカップ第12回 Jリーグユース選手権が始まった。
予選リーグ初戦はアウェーで横浜Mに3-1。続く第2戦はホームでC大阪に引き分け、1勝1分です。まずまずのスタートを切った(1面に関連記事)。

A: Jユースカップ 第12回 Jリーグユース選手権
(東農大浦和総合運動場、他)
予選リーグ
・10/17 3-1(前半1-0)横浜M
・10/24 1-1(前半0-0)C大阪

和SC(東京都1位代表)、横浜F・マリノス追浜(神奈川県2位代表)らの強豪チームとともにAブロックに入った(Action Schedule参照)。

B: 第14回県クラブユース(U-15)大会
1回戦
・10/2 9-0(前半6-0)戸田 JSC
2回戦
・10/11 3-1(前半2-0)ロク FC
3回戦
・10/16 3-0(前半1-0)飯能ブルーダー
準々決勝
・10/17 2-2(前半0-0)武南ジュニア
PK 6-5

予選リーグ突破は前提

ユース監督・村松 浩

初戦の横浜M戦は、相手の長身の選手を狙ったハイボール攻撃に押され気味の展開でしたが、何とか勝てました。選手が頑張るって、相手の攻撃の出所をうまく押さえて、浅いDFラインの裏を突いて得点することができました。横浜Mとは今年3度目の対戦で2勝1敗。力が拮抗している相手だと思います。
C大阪と甲府は直接対戦したことがありませんが、C大阪は速くてフィジカルの強いサッカーをするので、その辺りが要注意です。案には勝てないと思います。甲府は、両チームの対戦結果から見た限りでは、少し下回っているのかな、と思います。
レッズですが、以前はフィジカルの不十分だったこともあり、最後まで自分でやらずに他人に任せてしまうような部分があったんですが、もっと積極的にチャレンジするようになってきました。多少、強引でも何かの仕事をしてプレーを終わる、というところが出てきました。クラブユースでベスト4だったということで自信をつけた選手もいますし、個人が伸びてきたと思います。今年の力と実績からすれば決勝トーナメントに進むのは前提、という見方をされると思います。そこでどこまで上に行けるか、です。全体を見れば、やはりクラブユースと全日本ユースで優勝した広島が一歩抜けた力があると思います。それと磐田ですね。(10月21日)

0-2でも沈んでいなかった

ジュニアユース監督・名取 篤

武南ジュニアに2点目が入ったとき、相手は喜んでいましたが、うちの選手たちを見るとあまり沈んでいませんでしたので、逆に、ここから引っくり返してやろうと思いました。すぐに1点返して、同点に追いついた後は、そのまま逆転できるような勢いでした。あきらめてはいけないという、いい経験になったと思います。
この大会、レッズは2年生主体のチームで出ていますが、あの2年生たちにはふだん3年生に交じってやっている選手も多いんです。それで他の3年生チームに負けていないのに、自分たちが中心になるとできなくなってしまふ。前半はボールがつかずなかったり、ミスもありました。そこにはおごりもあつたかもしれませんが、それで何人か入れ替えたのですが、はやる気持ちを見せてくれたと思います。

JUN DR YOUTH

U-15、U-14の県大会がそれぞれ始まった。U-15では、4試合を勝ち抜きベスト4に進出した(4面に関連記事)。またU-14大会では決勝トーナメントの1回戦を勝ち、ベスト8に進んだ。また高円宮杯第16回全日本ユース(U-15)選手権の関東大会の組み合わせが決まり、レッズは柏レイソル(クラブ選手権関東1位・シード)、三菱養

C: 第1回県クラブユース(U-14)大会
(新座総合技術高校G)
1回戦
・10/17 11-1(前半5-0)ACアスミ

YOUTH INTERVIEW

広島への雪辱果たし、優勝を Jユースカップ真っ最中

クラブユースの悔しさ忘れない

FW 市川雄太郎(高2)
Jユースでは去年、決勝トーナメントの1回戦で川崎フロンターレに後半のロスタイムに入れられて負けています。今年はそういう悔しい思いをしたくないので、1戦1戦全力で戦っていきたくて思っています。予選リーグの1戦目ではFWとしての仕事ができなかったのが次こそは自分で点を取りたいです。夏のクラブユースでベスト4まで行けたのは自信にもなっていますが、あの大会ではチーム全体で5



左から市川雄太郎、川嶋正之、沢口 泉



左から三森 翔、池西佑樹、山崎家光

試合で4得点しか取れていないので、FWがもっと点を取らないと勝てないと思っています。また準決勝の広島戦では、自分が得点するチャンスもあったのに取れなかったのが、あの悔しさを忘れないで頑張ります。夏は腰の調子が良くなかったんですが、今はそれも治して調子が上がってきました。裏に飛び出すプレーが得意なので、いいボールが出れば決めたいと思っています。

自分がDFの中心となって

DF 川嶋正之(高3)

Jユースは優勝がまず目標です。1年生のときに準決勝まで行ったのですが、広島に負けてしまったので雪辱したいという気持ちがあります。今年のクラブユースでも準決勝で広島に負けていますし。

初戦のマリノス戦では、相手に背の高い選手がいるのでセットプレーに気をつけていましたが、やはり1点取られてしまい、次はやられないようにしたいと思っています。

夏以降、ポジション取りとかGKとのコミュニケーションとかを見直して修正できていると思います。一対一なども伸びていると思います。3年生最後の試合なので、自分がDFラインの中心になって、これから無失点で勝っていきたいです。

1試合1得点、達成したい

FW 沢口 泉(高3)

Jユースは3年間で最後の試合なので良い結果を残したいと思うし、いろいろなチームに迷惑をかけたこともあったので、優勝したいと思います。自分はまだ広島にクラブユースの借りを返していないので、決勝トーナメントに出て返せたら、と思っています。予選リーグの初戦で自分が得点できてチームが勝てたというのは、いい滑り出しだと思います。

3年前は全国優勝していい経験ができましたが(U-15クラブユース選手権)、それが今につながっているかどうかというのは、これからのJユースで結果が出ることだと思います。春先から1試合1点を目標にやってきましたが、この大会でもそれを達成できればいいと思います。

Jr.YOUTH INTERVIEW

目前! 関東大会

県大会を自信に全国を目指す

予選突破すれば勢い出る

三森 翔(中3) 主将

県大会ではいろいろ苦しみましたが、みんなで協力して突破できたので良かったです。準決勝の後半、PKも取られてしまいましたが、GKの富居は公式戦でPKを入れられたことがないので、信頼していました。期待通り止めてくれたので、そのペースでどんどん攻撃にいけました。ロスタイムに追いついたときはうれしかったです。関東大会が決まっても、今年は優勝したことがなかったので、決勝も準決勝と同じ気持ちでやろうと言っていました。県大会ではその気持ちが強かったと思っています。

関東大会の予選グループは、強いんですけどいい相手だと思うので勝って上にいきたいです。ここで突破しておけば勢いでいけると思います。

僕がキャプテンですが、マークをつけているだけで、みんながキャプテンみたいな感じでやっています。

三菱養和、今度は負けたい

MF 池西佑樹(中3)

関東大会では全国に行けるように予選を勝ち抜きたいです。三菱養和には前に負けていますけど、もう一度やれば勝つ自信はあります。

(10月17日のU-15県大会準々決勝について)

あの試合は、2年生が相手の当たりの強さに負けていたところがありました。でも自分が入ってから2点目を取られたんで、これじゃ入った意味がないと思って頑張りました。0-2になってもあきらめなかったことが勝因だと思います。逆に向こうは少し気が抜けたようなところがありました。それまでよりも何となくボールを前に持っていきましたから、いい勉強になったと思います。PKはあまり蹴りたくなかったんですが、みんなが「蹴れ」と言ってくれたんで。

自分たちが一つになれば

MF 山崎家光(中3)

県予選では、やっぱり準決勝での同点ゴールが一番印象に残っています。前半に2点やられていて、このままだと関東にもいけないと思っていたんで、うれしかったです。坂戸はいいチームでなかなか崩せなかったです。ああいうふう最後に追いついて勝ったことはあまりないので、最後まであきらめない、という経験になりました。去年のチームが高円宮杯の県予選で優勝しているし、自分たちはこれまであまりいい結果を残せていなかったのが優勝したかったです。

関東大会では、今年いい成績を挙げているチームが同じグループに多いですが、これからまた自分たちが一つになって、いい形でできればいいと思っています。一度負けた相手もいますが、次やれば負ける気はしないです。

Reds on Record in Youth

大会名はResult参照		A	A
試合日(結果)		10/17	10/24
選手名		3-1	1-1
3年	大山 俊輔 MF		
	川嶋 正之 DF		
	小寺 潤 MF		
	沢口 泉 FW	1	
	小尾 優也 DF		
	杉尾 一憲 GK		
	中村 祐也 MF		
	西川 優大 FW		
	星野 崇史 DF		
	細井 勇貴 DF		
2年	武藤 勝利 MF		
	市川雄太郎 FW		
	宇賀神友弥 MF		
	大橋 基史 GK		
	小池 純輝 FW		
	小松 裕志 MF		
	小松 靖和 DF		
	堤 俊輔 DF		
	西澤代志也 MF		
	野島 康宏 DF		
1年	増田 孝輔 MF		
	森 慎太郎 MF		
	山田 純輝 DF		
	吉田 周太 DF		
	渡部 竜二 MF		
	萩尾 勇真 MF	1	1
	一ノ瀬 建 DF		
	セルヒオ エスクデロ FW		
	鮫原 弘貴 FW		
	大池 昂之 GK		
0年	尾崎 綾 GK		
	金生谷 仁 MF		
	蟹澤 直人 GK		
	川原 拓郎 DF		
	小林 優平 DF		
	佐藤 謙介 MF		
	鈴木 竜基 FW	1	
	田中 宏育 MF		
	中山 透 MF		
	広瀬 祐太 MF		
村上 裕磨 DF			
村松 勇太 MF			
山田 哲 GK			

Action Schedule

YOUTH

Jユースカップ 第12回Jリーグユース選手権

- 予選リーグEグループ
- 10月31日 甲府(13:00・農大浦和)
- 11月7日 横浜M(14:00・埼玉スタ3)
- 14日 C大阪(14:00・南津守)
- 21日 甲府(14:00・韮崎中央)
- 7グループの各1位チーム、および2位チームの上位5チームが決勝トーナメントに進む。なお決勝トーナメントにはJクラブ以外から4チームが加わる。
- 決勝トーナメント
- 1回戦 12月12日・各地
- 2回戦 19日・小机競技場、長居第2陸上競技場
- 準決勝 23日・長居第2陸上競技場
- 決勝 26日・長居スタジアム



Jユースカップ予選リーグC大阪戦(10/24/東農大)

Jr.YOUTH

高円宮杯全日本ユース(U-15)選手権 関東大会

- 予選リーグAブロック
- 10月30日 三菱養和(13:00・埼玉スタ第3)
- 31日 柏レイソル(11:00・埼玉スタ第2)
- 11月6日 横浜M追浜(11:00・浜川競技場)
- 決勝トーナメント
- 11月7日 1回戦(浜川競技場)
- 13日 準決勝・敗者戦(富士河口湖)
- 14日 決勝・3決・敗者決(富士河口湖)
- 上位5チームが全日本選手権へ

朝日新聞埼玉少年少女スポーツ杯

第5回県クラブユース(U-13)大会

- 決勝トーナメント(16チーム)
- 11月13日~11月23日
- 決勝
- 11月23日(11:40・リコー東松山研修センター)
- 上位4チームが第7回県ユース(U-13)大会へ

第14回県クラブユース(U-15)大会

- 準決勝
- 11月20日 坂戸ディプロマツツ(10:00・鴻巣)
- 決勝
- 11月23日(13:20・リコー東松山研修センター)

第1回県クラブユース(U-14)大会

- 準々決勝~決勝
- 11月20日~11月23日
- 決勝
- 11月23日(10:00・リコー東松山研修センター)

第14回県クラブユース(U-15)大会ベスト4へ

準々決勝はPK勝ち。残り5分、2点差を追いつく粘り

10月2日から行われている第14回県クラブユース(U-15)大会で、レッズジュニアユースは現在ベスト4に名乗りを挙げている。同大会は県内の43クラブチームがトーナメント方式で優勝を争うもの。2年生主体で参加しているレッズジュニアユースは、1回戦から3回戦まで順調に勝ち上がったが、17日に与野八王子グラウンドで行われた準々決勝は、スピードやパワーで勝る武南ジュニアに押される展開。前半を0-0で折り返したものの、後半1分に右サイドからのクロスを手で決められ先制された。

20分過ぎから攻勢を取るようになったが、武南GKの好セーブもありゴールを割れなかった。逆に29分、CKのカウンターから左サイドを破られ、最後は中央から2点目を入られた。

万事休すと思われた30分、それまで堅かった武南DF陣がの中央が空いたところに、途中出場の池西佑樹(3年)が割って入り左足でシュート、1点を返した。



後半32分、永田拓也の左サイド突破が相手のファウルを誘いPKを得る(10.17/準々決勝・武南ジュニア戦)

攻め続けるレッズは32分、左サイドをドリブルで上がる永田拓也がエリア内で倒されPK。これを池西が右足できっちり決め、土壇場で同点に追いついた。

後蹴りのPK戦ではGK高山直人が活躍。サドンデスに入った6人目のキッカーとしてきっちりシュートを決め、その直後に武南の7人目のキックをセーブ。最後は和田祐樹が決め、PK6-5で準決勝にコマを進めた。残り5分で2点目を失ってもあきらめない粘りが同点劇を生み、選手たちにとっては大事な経験となった。準決勝は11月20日(土)、決勝は23日(火)に行なわれる(関連資料など2~3面)。



後半30分、池西佑樹のシュートでまず1点を返す(10.17/準々決勝・武南ジュニア戦)



PK戦。高山直人が7人目のシュートを止める(10.17/準々決勝・武南ジュニア戦)

U-13の守備は堅いぞ！ 横浜F・マリノスU-13に1-0の勝利

2ndステージ第9節前座試合(埼玉)



後半3分、FKを直接決めた加瀬光。左は池西希、右は石沢哲也(10.17/前座試合・横浜M戦)

U-13チームにとっては今年2度目となる前座試合が10月17日、埼玉スタジアムで行なわれ、1-0で勝ちを収めた。試合は2ndステージ第9節の横浜F・マリノス戦。

前回(6月26日)のFC東京戦と同様、押される展開となったがゴールを許さず、後半3分、右FKを加瀬光が左足で直接決めた。その後、横浜Mの反撃の時間が長かったが、相手への速

い堅い守備で1点を守りきった。



最後はGK原豊寛が体を張ってセーブ。相手を完封した(10.17/前座試合・横浜M戦)



守備陣は相手に自由なプレーをさせなかった。北見亮太がゴール近くで競り合う(10.17/前座試合・横浜M戦)